

チヨダウーテ株式会社（三重県）

～ 新機能性石膏ボードで快適な生活を提案する ～

1. 石膏ボードへの道

初代社長である平田富久氏は、戦前の家業である米穀商、材木商を経て、昭和23年に厚型スレートの製造を業とする千代田建材株式会社を設立した。

戦後の復興需要により、建築物の屋根材として厚型スレートは飛ぶように売れたが、昭和30年代に入ると厚型スレートよりも、強度と柔軟性、耐久性に優れ、数倍大きな製品の製作が可能でコストが軽減できるという石綿スレートが登場したことにより、売上げが鈍り始めた。そこで、将来性のある代替製品を調査したところ、石膏ボードに出会った。石膏ボードの利点は、防火性能と耐熱性に優れている、建築基準法や消防法などによって、内装材には石膏ボードなどの不燃材・難燃材を使用するよう義務付けられるようになった、遮音性や断熱性にも優れている、木材系資材が湿度や温度の影響を受けて伸び縮みしたり、曲がったりするのに対して、石膏ボードは伸び縮みがほとんどなく、寸法が安定している、低価格で経済的である、施工が容易で工期も短い、ということが挙げられるが、当時は、『燃えない内装材』というところに、特にその将来性を見出したのであった。そして、厚型スレートから石膏ボード中心へと事業転換した。

これが当たり、順調にシェアを拡大していくのだが、現在に至るまでの道のりの中には、伊勢湾台風で工場が全壊し、ゼロからの再スタートを余儀なくされるなどの苦難もあった。それらを乗り越え、現在では、吉野石膏に続いて石膏ボード業界第2位のシェアを占めている。

平成2年、千代田建材株式会社は、株式公開を前にチヨダウーテ株式会社に社名変更をした。21世紀に向けて石膏ボードも含めた総合建築資材メーカーに生まれ変わるイメージを内外にアピールするためだ。チヨダウーテとは、千代田 + UNIQUE+TECHNOLOGY（ユニーク・テクノロジー）から由来している

2. 新製品開発と知財戦略

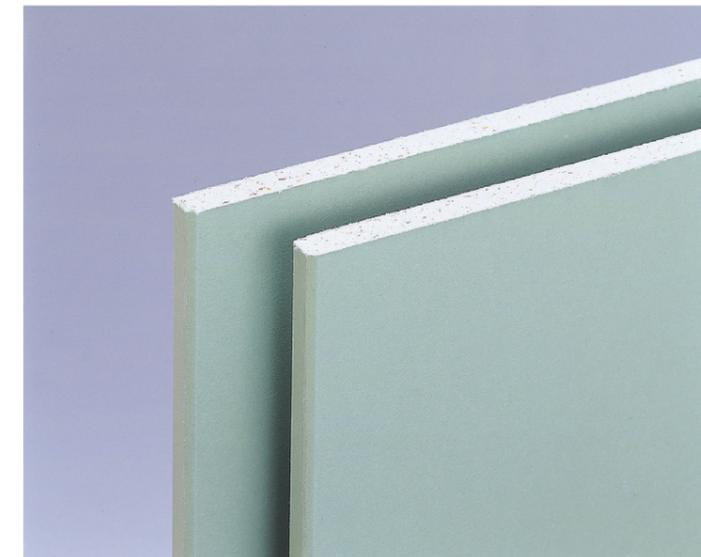
そんな同社の技術開発は、差別化を図るため、他社には無い製品を開発することがテーマである。例えば、従来の石膏ボードの弱点である強度の面で石膏の量や発泡剤の量を調整することにより、従来製品の2倍の強度を持たせた新製品を開発、『タフジューボード』の商標登録をし商品化した。また、さわやかせっこうボードや茶入りせっこうボード（Tea Life）といった高機能性ボードも商品化している。さわやかせっこうボードは、ボードの芯材の中に稚内層珪質頁岩を混ぜることで、調湿機能を持たせている。さらに、間仕切用の石膏ボードについては、ボードの防火・耐火・遮音効果を上げるために、ボードと工法を一つのシステムとして、国土交通大臣の認定を取得した上、ユーザーに提供することで、他社との差別化を図っている。

こうした新製品の開発に伴って、出願した特許は、石膏ボードの高機能性に関する出願が多く、また新製品名も商標出願されている。同社の先行技術調査は、IPDL（特許電子図書館）、パトリス、他データベースを利用して多様に行い、特許出願の際には、社内で稟議にかけ、決済が降りれば出願するのだが、とりあえず出すという位のスピーディーな態勢も取っている。明細書を書くのは研究者だが、出願書類作成、年金管理には特許事務所を利用している。

3. ニーズに応え、躍進は続く

石膏ボードは一見すると差別化が難しい製品ではあるが、ニーズにあった性能を備えた高機能なボードの開発が更に必要であり、また、近年の社会問題となっているリサイクルや環境問題への対応として石膏ボードを再利用するなど、企業の社会的責任も果たし、総合建材資材メーカーとしてニーズに応え続けるべく日々躍進している。

【保有権利に基づく製品例】



さわやかせっこうボード

素材に混合された稚内層珪質頁岩の吸放湿性能によって、室内の湿度を一定範囲に保つことが出来る石膏ボード

<会社概要>

名称及び代表者名	チヨダウーテ株式会社 代表取締役社長 平田 晴久
本社所在地	三重県四日市市住吉町15番2号
創業	1948（昭和23）年
資本金	33億1,900万円
従業員数	466人
主要製品	石膏ボードの開発・製造・販売
電話	059-363-5555
URL	http://www.chiyoda-ute.co.jp/